

議 事 録 要 旨

会議名	第1回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日 時	令和2年8月12日（水） 19:30～21:30
場 所	あわら市役所 正庁
出席者	<p><部会員> 市民／笹原修之（部会長）、高木めぐみ、西田幸男、八木康史 （一社）あわら市観光協会／津田香由紀 あわら市文化協議会／堀田あけみ あわら市商工会青年部／松川秀仁 福井県農業協同組合／深町治男 野菜ソムリエコミュニティ福井／土橋登喜雄 芦原温泉旅館協同組合／山口賢司 音泉組／青柳淳一 農家カフェ／藤井和代</p> <p><事務局> 経済産業部／武田部長 新幹線まちづくり課／山本課長、翠補佐、木村主査 商工労働課／堀川主査 観光振興課／赤神補佐 西口管理運営準備室／笹井室長</p> <p><オブザーバー> あわら市／佐々木市長 (株)コム計画研究所／鈴木奈緒子</p>
欠席者	<p><部会員> 福井工業大学／川島洋一（教授） 市民／森嗣一郎 ゲンキッズステーション ASOVIVA!／長田康秀</p>
内 容	<p>1 開 会 2 部会長あいさつ <u>部会長：</u> ・意見を言ったなら言ったなりの責任が伴うと思うし、そういう使い方をしていくべきである。これから部会を進める上で、言ったからには言ったなりの責任を持って施設を利活用していく、そういった意識で臨んでいただくようお願いしたい。</p> <p>3 市長あいさつ <u>市長：</u> ・北陸新幹線芦原温泉駅開業まで、駅周辺の工事も目途が立ってきたと思っている。 ・賑わい施設を、多くの人に使ってもらい、また使い勝手のよい施設とするために、今年</p>

度より管理運営体制についての専門の部署として、観光振興課内に西口管理運営組織準備室を設け、庁内での調整を行っているところである。

- ・新幹線開業まで、限られた期間と時間の中でご負担をお掛けすることとなるが、本部会の趣旨についてご理解いただき、皆様のお力添えをお願いしたい。

事務局：

- ・本来ならば、本日より部会員の全員お一人お一人に委嘱状をお渡しすべきところではあるが、時間の関係上お座りいただいている席に置かせていただいております、ご了承願いたい。

4 部会員紹介

- ・今年度から2名加わっていただいた。
- ・部会員、事務局、オブザーバーの順に一人ずつ自己紹介

5 報告事項

(1) 芦原温泉駅周辺整備計画について

事務局：

- ・資料2を基に、芦原温泉駅周辺整備の全体計画を説明

(2) 賑わい施設の進捗状況について

事務局：

- ・資料3～5を基に、賑わい施設整備概要や魅力体感施設整備概要を説明

(3) カフェ・物販店舗のテナント募集について

事務局：

- ・資料6を基に、カフェ・物販店舗のテナント募集の概要を説明

(4) 賑わい施設の管理運営体制について

事務局：

- ・資料7を基に、賑わい施設の管理運営体制(案)を説明

事務局：

- ・報告事項(1)～(4)の説明について、質問等があればお願いしたい。

部会員：

- ・現在セブンイレブンが在来線駅舎にあるが、今後どのようなようになるのか。

事務局：

- ・新幹線駅舎が完成すると改札口付近にコンビニができ、それに伴い在来線の方はなくなると聞いている。

部会員：

- ・管理運営組織の指定管理は、募集をかけることになるのか。

事務局：

- ・市が新たに設立した場合は特命指定ということも考えられる。

部会員：

- ・仮の話になるかと思うが、専門家を入れての管理運営組織になると考えればよいか。

事務局：

- ・県内の施設へ視察に行ったが、法定で決まった維持管理の業務が多数あることがわかった。この部分は業者委託して点検をしている。維持管理費は多額の費用がかかるため、いかにコストを抑えられるかが今後の課題である。

市長：

- ・維持管理費については、あくまで業者が見積を最大で出したものである。このような管理は通常まちづくり会社が行うべきだが、この施設で収益をあげていくのは難しいと思うので一般社団法人でどうかと考えている。県外を含め現在様々な状況を調べているところである。

6 協議事項

事務局：

- ・協議事項に入る前に、まちづくりデザイン部会のこれまでの取組内容を説明する。
新幹線開業まで、2年7ヵ月となった。そのため市では、一昨年7月に、駅周辺のまちづくりの方向性を示す「まちづくりプラン」を策定し、このプランに基づき新幹線開業までに駅周辺の整備を完了させるため、現在取り組んでいる。
- ・昨年度は、駅周辺整備の中でも、駅前の顔となる西口駅前広場（賑わい施設）をどう効果的に活用するのかということが課題となっており、部会員の皆様から、実際に広場を利用するプレーヤー目線での、施設整備に向けた機能的な意見をいただき、基本設計に反映させ、現在、実施設計を行っている。
- ・今年度は、施設活用のより具体的なことを協議していただきたいと思っており、建物建設は来年の6月からスタートし、新幹線開業の令和5年3月には完成する予定だが、「実際にどのように使えるのか。」「また、どう賑わいのある施設にしていくのか。」など、ソフト面が未だに課題になっている。
- ・そこで、昨年度、部会員の皆様にアンケートを実施しており、それを基に想定しているイベント内容など、賑わい施設の総体的なことについて、具体的なイメージを持っていただくため説明したいと思う。説明後、それに対して、それぞれの立場で一人一人ご意見をいただきたい。この部会員の皆様は、実際に、この施設を使用するプレーヤーでもあると、市では考えているので、部会長の挨拶にもあったとおり、最後まで、ご協力していただけると思っているので、ご理解のほどよろしくお願ひしたい。

(1) 賑わい施設の利活用について

事務局：

- ・資料8の昨年度までの賑わい広場の利活用(案)を基に、資料9で年間の想定表を作成

事務局：

- ・ただいまの説明について、ご意見やご質問を一人ずついただきたいが、市としては、資料9のイベント想定表の各マスが埋まり、毎月、何かのイベントが開催されており、賑わい施設に行けば、何かイベントがやっているというのが目標である。「ハピリンなどで行っている、

あのイベントなら私たちの団体でできる、いつも中央公民館ホールのステージを使って発表をしているが、賑わい施設のホールでは是非やりたい。」など意見を伺いたい。

部会員：

- ・賑わい広場は土日に人が集まりやすいと思うので、平日にスタッフだけでまかなえるような仕掛けがあるとよい。私もハピテラス等でイベントをしているが、最初からうまくいくのは難しいと思うが、皆さんと知恵を出し合いながらいいスタートを切れるようにしたい。
- ・ここにはないが落語やお化け屋敷など、年齢問わず楽しめるものを企画していくとよい。

部会員：

- ・賑わい広場が整備されると当面このままであると思う。5年、10年で世の中が変化していく中、固定で作りこむと古く感じていくと思う。映像等で楽しめる空間にしていくとよい。
- ・確認だが、Wi-Fiは広い範囲で使えるのか。

事務局：

- ・Wi-Fiは全館使用できるよう考えている。

部会員：

- ・ある程度の容量が必要になるのではないかと思う。
- ・私自身は、今できることを精一杯していく。できるだけ若い人が活躍できる場になるようお手伝いしていきたい。

事務局：

- ・作りこみというのはどの資料から感じとれたか。

部会員：

- ・資料5の魅力体感施設の内容が、今はいいかもしれないが、10年後どのように映るか不安である。

市長：

- ・魅力体感施設は作りこんでいるが、発信する内容を変えていく。永平寺や恐竜博物館などは本物感を伝えるため実際に借りてきて定期的に変えたいと思っている。
- ・ICT関係は常に進化しているので維持管理が大きくならないようにしていきたい。

部会員：

- ・通年で何かしているといいと思うが、年間50週を埋めるのは至難の業である。まちづくり福井も試行錯誤しながら成功したものを増やしている。あきらめず発掘していくことが大事である。通年的に賑わいのあるイベントの模索を開業後ではなく今年から考えていく必要がある。確実に人が集まってくるものができると思えば変わっていくと思う。

市長：

- ・開業の1年前には仕組みが出来ていなければならない。金津には昔、六日、八日、十日など市がたっていた。史実に基づいて市を行おうとすると誰が運営するのかという話になる。市民参画がキーワードになるのでその仕組みをおさえない。
- ・軽トラ市、マルシェなど新しいビジネスチャンスがある場所として認知されるのに時間がかかる。その際、1回1回に経費は出せないでワゴン市の参画者がおり、需要があるのなら備品としてワゴンを整備して備えておくなど具体的に描いていきたい。

- ・また、坂井北部丘陵地で採れた規格外の野菜を販売できる場所として活用できないかと思いついている。

部会員：

- ・私自身も新幹線開業と同時に取り組むのではなく来年度からでもプレ的なものをやり始めるぐらいの気持ちでないと開業には間に合わないと思っている。

部会員：

- ・想定表を見るとほとんどハピリンで行っているものである。お客さんにとってワクワク感がないものになり、福井駅の真似だと思われる。福井駅のいいところは真似をして福井駅を越えることをする必要がある。
- ・メロンまつりもハピリンでまちづくり福井との話で開催し、大きな盛り上がりとなった。あわらでは、梨、柿、スイカまつりもできる。量的なものがクリアできれば JA として 5 月～11 月まで毎月何かできると考えている。個人的に持ち寄ってトラック市をするのもよい。ただ、年配の生産者で駅前に売りに行くような元気な人はいなくなっている。
- ・10 年後に向け、若い生産者を巻き込み、新しい産地を作る気持ちで何か面白いことを JA としても取り組む必要があると思う。
- ・温泉に合わせた温泉メロンやトマトなど JA だからできる方法を考えていきたい。
- ・JA がやるのではなく農家がやるというのが 1 番である。

部会員：

- ・ガイドを立ち上げたがあわらを売り込むための「あわらしさ」とは何かを歴史から調べている。定期市も先ほど出たが、八日は鎌倉時代、六日と十日は江戸時代にできた市である。どのような市だったかはこれから調べる必要があるが、定期市に組み込んでいけるのではと思っている。
- ・体験を取り入れたガイドの需要が多い。文化的な体験もよいと思う。
- ・金津まつり保存会で祭囃子に関わっているが、金津は太鼓のまちで各地区に太鼓のチームができる。子どもたちにも太鼓文化を引き継いでいける状態なのでそれを取り込んでいけないかと思う。
- ・あわらを強調したいが、具体的にはこれから考えていけば見つかると思う。
- ・どこにもあわらの歴史を映像等で紹介する場がない。あわらの歴史を感じさせるものをどこかで紹介できる場所があるとよい。

市長：

- ・先ほど説明になかったが賑わいホールの 2 階部分に大型スクリーンを設置するので様々な使い方ができる。例えば三国の花火大会の映像を映すと三国に行ってみようとなったり、金津まつりが近づくとその映像を映したりして PR 効果を高めることができる。

事務局：

- ・200 インチ（高さ約 2.6m×幅約 4.6m）の大型ビジョンをつける。ハピテラスは 300 インチである。

部会員：

- ・市民皆さんで走り続けても息切れすることがある。例えば高校生や大学生の展示する場所や写真が取れるような装飾、からくり時計ではないが一定の時間になると必ず何かが起こるといった仕掛けがあるとよい。

- ・コロナにより修学旅行が変わってきている。今年度急遽決まったが、坂井森林組合のバイオマスの見学に行き、そのあと美松やグランディア芳泉のボイラーを見学することが決まった。あわらではエコなエネルギーを活用しているところがある。森林とまちが近いのが売りということもある。木を多く使っているがそれ以外も有効に活用してつながっているまちとしても見せていくとよい。

部会員：

- ・賑わいホールのイベントだけでなくそこからの街なかへの動線を作るようなイベントを考えてほしい。駅前に集約するならばそこに行くまでの動線でイルミネーションなどの仕掛けを考えてほしい。

部会員：

- ・あわら市は温泉や食に魅力があり、渋く大人のイメージがあるが、魅力体感施設はかわいらしく子どもに来て欲しいことに重視しすぎて、ギャップを感じる。もう少し具体的にターゲットを絞った方がいいと思う。恐竜の展示でなく、生活様式や歴史について深く掘り下げるとよい。
- ・自然にかかわる体験ができる場所があった方がよい。
- ・個人的には旅館の料理を食べられるイベントがあるとよい。

部会員：

- ・商工会青年部として5つほどイベントが書いてあるが、実際にできるのは1つ、よくて2つである。何十万もかけてイベントをしているが、全然収益がなく結局ボランティアとなってしまう。しかし、地元で商売をしている感謝の気持ちを込めてするもので大事なことだと考えている。
- ・1日、お店をしてそれなりの収入があるものを中心にしないと数も打てない。この部会員さんも各団体を代表してきていると思うが、年間に1回するぐらいだと思う。ただ、私たちができることとしてそれぞれがネットワークを持っているので情報発信に活用してもらおうとよい。
- ・管理運営組織がイベントの中心となっていく必要があると思う。
- ・ほとんど地元の人が駅を利用すると思うので200インチのモニターは観光情報ばかりではなく、四季を感じるようなものを流すとよい。
- ・木をたくさん使っているが、経年劣化していくことが予想される。取り換え等が必要になり、業者委託すると莫大なコストがかかると思うのであらかじめ把握しておくべきである。

部会員：

- ・コロナ禍の前であれば全てのイベントができると言っていたが、今は全部無理としか言えない。ネガティブに考えているわけではなく、もちろんワクチン等ができ、コロナ禍の前の生活に戻れば、記載されているイベントはよいと思う。
- ・イベントも大事だが、あわら市民（子ども）向けにするのがいいと思う。湯かけまつりをこども園12か所に出張して行い思ったことだが、その子どもたちが「あわらを最高」だと思ったらこれからあわらはもっと大きくなると感じた。小学生になるとバラバラになるが縁が切れないように小学校対抗のクイズ大会を本格的な機材をつかって開催すると子どもたちが喜ぶし、大人も楽しめる。

- ・コロナ禍では、外向きでなく、市内に目を向けてするのもいいと思う。
- ・Wi-Fi も必須だが3年後は5Gが主流になっており、必要だと思う。5Gによってデジタルコンテンツの使用方法の幅が広がっていくと思う。

部会員：

- ・県外、県内の観光客が有名な食材を求めて来るが、旅館でそれに合うものがないことがある。旅館だと規格にあうものを必要な量だけ準備しており、制約がある。魅力体感施設ができ、市は「福井県の北の玄関口」として福井駅ではなく芦原温泉駅で下車してもらい滞在型を目指しているので、あわらの食材だけでなく福井の質の高い食材やものづくりの展示などのイベントをするとよい。
- ・旅館の料理人が作る料理が駅で食べられたり、各旅館の料理長の特製弁当が食べられたりするとよい。簡単で限定したものでできるとよい。
- ・規格外でもいいので野菜や魚をワンストップで買える場所はあまりないのであるとよい。

市長：

- ・【資料5】の右上のターゲットの部分を見てほしい。ただ並べているわけではなく、来訪者には福井、あわらの観光の魅力や交通アクセス、ここでしかできない体験をファミリーや女性など各属性に発信している。
- ・さらにはあわらに住む人が魅力を再発見する場所にしたい。あわらの歴史をしっかりとわかる場所が欲しいという思いもあり、こういう場所が必要だと思う。
- ・あわら温泉を目的地に福井へ来る人は少ないと思う。東尋坊や永平寺など100万人観光地が近隣にあり、その宿泊地としてあわら温泉が選ばれている。魅力体感施設を待合時間に活用していただき、あわら周辺の観光地を紹介し、新しい発見をしてもらいリピーターにつなげていきたい。
- ・食の関係では、飲食はカフェ・物販店舗だけでなく賑わいホールに机やいすを並べて使ってもらえることもできる。修学旅行生が来た際、市内に100人規模で飲食できる場所がない。ホールにテーブルやいすを並べてあわらの食材を使った弁当を食べてもらおうと思っている。

部会長：

- ・皆さんの意見を聞いたが、各団体で何ができるという意見がたくさん出てきた。賑わい施設への期待値が高いことを意味していると思う。現在、大きな催しをしようとする湯のまち広場が市民の自由にできる場所としてあり、ここの大きな違いは屋根があることで天気に左右されないことで皆さんが安心してイベントの計画を立てられる点である。また、展示等も多くの人目に触れられると思う。
- ・ここにいるメンバーの意見だけでは限界がある。市役所内の各課が所管する事業を吸い上げるともっと数が出てくると思う。売上のためだけに活動していない団体等もあると考える。
- ・運営元になる西口管理運営準備室が活動したい人の相談できる窓口として機能するかが重要である。例えばJAで野菜やフルーツを売る催しをしたいが、いい司会者を紹介してほしいと相談があった際、マッチングにも携われるとよい。

- ・市民が集まりたい場所になれば観光客も立ち寄りたくなると思うので将来的に目指していくべきである。

(2) その他

【次回開催日時】

- ・今年度の開催はあと1回で1月下旬の予定

7 閉 会

事務局：

- ・長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがたい。本日頂いた意見を集約して次回お示ししたい。賑わい施設の利活用については、イベント時はもとより平日の使い方も重要だと考えている。今後も皆さまからのご協力をよろしくお願いしたい。